

「イサク誕生の予告」

2021年01月04日

ふと見上げると、三人の人が近くに立っていた。それを見ると、アブラハムは彼らを迎えようと天幕の入口から走り出て、地にひれ伏して、言った。「ご主人様、もしよろしければ、どうか僕のところを通り過ぎて行かないでください。」(創世記 18 章 2 節～3 節)

彼らの一人が言った。「私は必ず来年の今頃、あなたのところに戻ってきます。その時、あなたの妻のサラは男の子が生まれているでしょう。」サラは、その人の後ろにある天幕の入口で聞いていた。(創世記 18 章 10 節)

神は二人の天使を伴い、三人の旅人の姿をとってアブラハムに現れた。「ふと見上げると、三人の人が近くに立っていた。それを見ると、アブラハムは彼らを迎えようと天幕の入口から走り出て、地にひれ伏して、言った。『ご主人様、もしよろしければ、どうか僕のところを通り過ぎて行かないでください。』」当時は、それぞれの民族、部族が勢力範囲を決めて、互いの生存を保ち合っていたので、その中を、見知らぬ旅人が通過することは、危険極まりないことであった。旅人の恐怖と不安を知るアブラハムは、最大の敬意を持って三人を迎えようと、木陰で休みを取り、足を洗い、パンを召し上がって、元気をつけて、お出かけくださいと申し出た。彼らは「分かりました。それではあなたの言うとおりにしてください」と受け入れた。アブラハムは、妻サラに最上の小麦粉でパン菓子を作らせた。牛の群に走り、柔らかくておいしそうな子牛を選び、僕に調理させた。凝乳と、乳と、調理した料理を旅人に差し出し、自ら傍で給仕をした。最大のもてなしをした訳である。このアブラハムの振る舞いを、ヘブライ書 13 章 1 節～2 節で、「兄弟愛をいつも持っているなさい。旅人をもてなすことを忘れてはなりません。そうすることで、ある人たちは、気付かずに天使たちをもてなしました」と書いている。イスラエル人は、命の危険に怯える旅人を親切にもてなすことを信仰の証しとした。食事を終えた彼らはアブラハムに、「あなたの妻のサラはどこですか」と尋ねたので、彼は、「その天幕の中にいます」と答えた。すると、彼らの一人が、「私は必ず来年の今頃、あなたのところに戻ってきます。その時、あなたの妻のサラには男の子が生まれているでしょう」と言った。サラは、この会話を、後ろの天幕の入口で聞いていた。アブラハムとサラは多くの日を重ねて年を取り、サラには月経がなくなっていた。サラは、子どもが生まれるという旅人の言葉を聞いて、「老いてしまった私に喜びなどあるだろうか。主人も年を取っているのに」と心の中で笑った。アブラハムも以前、子どもが生まれるという神の言葉に、ひれ伏してはいたが、笑った。今また、サラも同じように笑ってしまった。神はサラの心の中の笑いを見抜かれて、アブラハムに、「どうしてサラは、自分は年を取っているのに本当に子どもを産むことなどできるのか、と言って笑ったのか。主にとって不可能なことがあるのか。私があなたのところに戻って来る来年の今頃には、サラには男の子が生まれている」と再び、息子の誕生を予告された。サラは、心の中まで見抜かれていることに怖くなり、「いえ、私は笑っていません」と打ち消した。神は「いや、あなたは確かに笑った」とサラの不信を指摘された。「主にとって不可能なことがあるのか」が聖書を貫くメッセージである。マリアは天使ガブリエルから懐妊を告げられた時、受け入れられず、「私は男の人を知りませんのに」と言うと、ガブリエルは「神にはできないことは何一つない」と語った。人知では不可能なことを神は可能にする。この奇跡を我が身で体験するのが信仰である。